

平成22年3月定例会市議会

提 案 説 明 要 旨

総 社 市

本日、3月定例会市議会を招集しましたところ、議員の皆様にはお繰り合わせ御出席いただき、誠にありがとうございます。

日ごろより市議会をはじめ、市民の皆様には市政の推進に格別の御協力を賜っておりますこと、重ねて厚くお礼申し上げます。

今議会に提案しております諸議案の説明及び所信の表明に先立ちまして、県立特別支援学校の設置に関しまして御報告させていただきます。

先の県議会におきまして倉敷市に設置と表明されました。総社市に特別支援学校を作る会、市議会、新見市、高梁市、吉備中央町をはじめとする関係者の御尽力、総社市を含む県北部の障害のある子どもたちと御家族の心を思うと断腸の思いです。しかし、総社市としては、この結果を真摯に受け止め近隣自治体としてできる限りの協力をしてまいりたいと考えています。保護者や子どもたちに喜んでいただける学校となるよう、早速、2月26日岡山県教育長あてに市議会議長、教育長と連名で、議員の皆さまにお配りしており、5項目の要望と要望を聴く場を設けるという内容の要望書を提出し、その席で、要望を聴く場を設けることのできぬ確約を得ました。引き続き県に対し働きかけてまいりますので、議会の皆さまの御支

援、御協力をお願い申し上げます。

それでは、平成22年度の予算案をはじめとする諸議案の御審議をお願いするにあたり、市政運営や予算編成の基本的な考え方を申し上げます。

総社市は、景気低迷により、歳入では法人市民税などの減少に歯止めがかからず、市税が2年連続のマイナスとなるなど厳しい財政状況に直面しています。この状況を踏まえ、平成22年度は新規事業を抑え、施策の優先順位の一層の明確化、既存事業の内容や手法の再点検など、工夫を凝らし、緊縮型財政で乗り越えていく決意でございます。

しかし、このピンチは、市民と行政の相互理解を更に深めるチャンスです。市民と行政の距離を更に近いものとし、意見や気持ちをぶつけ合い、その結果、市民と行政が互いを尊重し、共に考え、共に実行し、この時期を乗り越えていかなければなりません。そして、このことが、私の目指す「自立する総社市」の実現につながるものと信じています。

平成22年度は、その気運を醸成する新たなスタートの1年にしたいと考えています。

さらに、真の地方分権の確立に向け、国に対して発信する勇気を持たなければなりません。そのために職員の人材育成には引き続き力を注いでまいります。税源や権限の委譲を求める以上、霞ヶ関の職員にも対峙できる職員、突破力のある職員、同時に弱者に対する思いやりとやさしさを持ち合わせる職員を育成しなければなりません。そして、市民が、そのような職員の変化を認めたとき初めて「自立する総社市」の実現に近づくものと考えています。

そのためにも、職員採用試験において、プレゼンテーション討論試験、面接官に民間企業の人事担当者を起用する制度、あるいは試験といえども来年度の人事からは人事考課制度も有効活用しながら、創造力、発想力、判断力、突破力などを考慮に入れ人事配置を行います。

平成22年度予算は、このような背景を鑑み、事実上の緊縮型予算として編成しました。しかし、発想やアイデアで市民に希望や勇気を与えるソフト事業に重きを置き、子育て、医療、道路修理など市民生活に密着した分野に重点配分いたしました。

それでは、平成22年度当初予算の主な事業を説明させていただきます。

きます。

はじめに、「総社新医療体系」について申し上げます。

平成21年4月からスタートした総社新医療体系の4つの柱のひとつである、夜間・休日等の急病、救急診療体制では、水曜日の輪番を13医療機関でスタートし、その後、昨年10月から岡谷の岡谷医院に参加していただき、現在14医療機関で実施しています。平成22年度からは、小寺の泉クリニックも加わり、15医療機関で輪番制を予定しています。また、平成22年度から、毎月第3月曜日に清音三因の清音クリニックに診療を実施していただける内諾も得ています。

さらに、休日の歯科診療について、岡山県歯科医師会吉備支部と協議を重ね、22年度から毎週日曜日の午前に、吉備支部会員の有志の先生方による輪番制での実施の内諾も得られ、更に総社新医療体系に肉厚が増すこととなり、今後も市民の健康を守るべくレベルアップしてまいります。

次に、「子育て王国そうじゃ」を更に充実させるものについて申し上げます。

待機児童ゼロを目指して、民間による保育所の新設を予定し、そ

の設置に係る経費の一部を助成することとしております。定員は60人から90人で、放課後児童クラブも併設されると聞いており、大いに期待しているところでございます。また、山手幼稚園と総社北幼稚園において、幼稚園の教育時間終了後に預かり保育を試行する予定としています。このことは、幼稚園の就園率の向上、保育所の待機児童減少、家庭における就労支援と様々な面に効果が期待でき充実させたい事業であります。

次に、生活と健康を推進する事業について申し上げます。

デマンドタクシーにつきましては、議会でも検討していただいておりますが、高齢者の移動手段の確保はもとより、市民の皆さまが利用しやすいものとなるよう実務的な論議を行います。また、平成22年度中に満70歳を迎える方へ肺炎球菌予防接種の助成を、実施することとしております。また、女性特有のガン検診の受診率向上のため、一定の方を対象とし、医療機関での受診者に助成を行うことで、早期発見、早期治療に役立つ事業も予定しています。

これらのほかにも、交通安全施設設置、道路水路の改修や補修など、地域の身近な予算につきましても、地域経済の下支えとなるよ

う 3 月補正予算とあわせて予算編成をしたところでございます。

これらの事業を含め、平成 22 年度当初予算は、一般会計で 232 億 3 千万円、特別会計で 149 億 7 千 3 百 50 万円、公営企業会計で 21 億 1 千 9 百 20 万円、これら 11 会計を合わせまして 403 億 2 千 2 百 70 万円としております。これは、前年度当初予算と比較しますと、一般会計で 0.7%の増、全会計でも 0.7%増の結果となっております。しかし、一般会計におきましては、新たに 22 年度から子ども手当の実質的な支給経費が 9 億円程度あることから、これを差し引くと 3.2%の減となっているところでございます。

平成 22 年度におきましても、財源不足を補うため、昨年度と比較して 4 億円程度の減であります。財政調整基金など主要な基金から約 10 億円を繰り入れる予定としております。また、現在策定中の第 2 次行政改革大綱では、第 1 次行政改革の方針を受け継ぎ、合理化を進めながら、効果の高い事業の実施、「量」から「質」へという視点で検討しているところでございます。

次に、「そうじゃ吉備路マラソン」について御報告させていただきます。

2月28日に開催しました「そうじゃ吉備路マラソン」は、7,925名のエントリーの中、当日は、7,415名という過去最多のランナーが新春の吉備路を快走されました。当日は、幸い天候にも恵まれ、無事終わることができました。市議会を初め、この大会を支えてくださった多くの大会関係者、ボランティア、沿道で声援を送ってくださった市民の皆様に対し、この場をおかりして厚くお礼申し上げます。

今大会は、北海道から沖縄まで県外から多くのエントリーがあり「そうじゃ吉備路マラソン」の名を全国に発信できました。また、ランナーズディスカウウントやフォトコンテストを実施し、走る方、応援する方の双方で盛り上がる大会となりました。

今後とも総社市の四季を飾る行事のひとつとして、内容の充実を図り、様々なアイデアにより市民に活力を与え、「経済効果」、「健康向上」、「全国発信」の3点を重視しスキルアップしてまいります。

次に、ごみ袋料金の問題につきまして経過を説明いたします。

私はゴミ袋料金を見直すという公約を掲げており、また、ゴミ袋料金が家計を圧迫しているという声を多く聴いております。そこで、私は思い切った値下げを実施してみてもどうかと考えています。

一方で、ごみ袋料金を値下げすることにより、家庭ごみの排出量が増加することが懸念され、いわゆるリバウンド現象が発生しないよう対策を講じる必要があります。

このことにつきましては、昨年 12 月 22 日に開催された「総社市廃棄物減量等推進審議会」でも対応策についての協議をお願い、この審議会の中に「専門部会」を設け、現在集中的に審議している状況でございます。

「ごみ袋は値下げするが、リバウンドはしない・させない。」、矛盾しているかもしれませんが、これを成り立たせるために最も重要なことは、ごみ減量化に対する市民の意識であります。私は、値下げと同時に、リバウンドさせない方法として「市はごみ袋料金を値下げするが、市民は自らの責任としてごみの減量化に努力します。」という約束を各種団体をお願いしたいと考えています。市民と行政がそれぞれ責任をもって役割を果たしていく。これが「わたしたちが考え、わたしたちが実行していくまち」である「自立する総社市」を実現する第一歩と考えています。

次に、現在進めております事務事業について、御報告させていただきます。

まず、暮らしの便利に関する事業3点について報告いたします。

1点目としまして、「そうじゃ道標^{みまじるべ}」の発行についてでございます。

市民の皆様の暮らしに密着した情報を掲載した地域情報誌「そうじゃ道標^{みまじるべ}」を、3月末までに、市民の皆様に配布することで準備を進めています。

市民の皆様が知りたい情報、改めて気づく総社の良さを盛り込んでいます。暮らしの中で役に立つものですので、ぜひお手元においていただき、様々な場面での生活のナビゲーターとして御活用くださいますようお願いいたします。

次に2点目としまして、「清音駅東地区整備事業」についてでございます。

この事業は、合併後の平成17年度に事業着手し、本年2月1日に清音駅東口を開設することができました。

開設に伴うオープンセレモニーは、地元清音地区の皆さまをはじめ、国会議員、県議会議員、市議会議員の皆さま、約150人の出席のもと、清音幼稚園の元気な鼓隊演奏でセレモニーを盛り上げていただきました。

東口の整備としましては、エレベーター3基等の施設、ロータリ

一、128台分の駐輪場などの整備を行いました。また、交流広場や周辺道路整備を行い、植栽等の工事は3月末には完了する予定でございます。市の南玄関として、拠点性を持つものへ更に発展することを期待しています。

次に3点目としまして、「障がい者福祉」についてでございます。

福祉課に障がい者のための専門の係として「障がい福祉係」を設置するとともに、相談窓口の一本化でワンストップ対応の「相談支援センターゆうゆう」を設置しました。相談員は、精神保健福祉士、社会福祉士、発達障害支援コーディネーターの3人体制でございます。また、これらに加え、市内6箇所を対象に、毎月巡回相談を開始し、障がいのある方への支援を拡充してまいりました。その結果、20年度で475件の相談件数が、現在までに1,500件と大幅に増加し、障がい者の生活改善や福祉サービスの利用につながっています。

次に、総社市を全国発信する事業3点について報告いたします。

まず、1点目としまして、「総社観光プロジェクト会議」についてでございます。

平成20年5月に総社観光プロジェクト会議を発足し、総社の観光に対する理念、魅力は何かについて議論を重ね、その結果、総社市の知名度アップや観光振興について工夫を凝らした提案をいただき、去る2月3日に最終となる第8回目の会議を開催したところでございます。最終的にまとめた報告書は、3月末までに浅沼会長から提出いただく予定です。その内容につきましては、改めて議会の皆さまに報告させていただきたいと考えております。

また、現在までの成果としまして、昨年3月に総社観光宣言を制定し、プロジェクト委員でデザイナーの水戸岡先生デザインの備中国分寺五重塔を使った市役所の封筒や名刺の台紙、絵はがき、ポスターなどを制作し活用しております。

次に2点目としまして、「多文化共生事業」についてでございます。

深刻な雇用不安などで、元気をなくしているブラジル人たちを元気づけるため、カストロ・ネーベス駐日ブラジル大使の来総が、3月27日に決定しました。このことを記念し、「外国人が夢をもつことができる多文化共生のまちづくり」をテーマに、ブラジル大使来総記念フォーラムを開催します。スイスのジュネーブに本部を置く

国際移住機関（IOM）の ^{なかやまあきお}中山暁雄 駐日代表をコーディネーターに、ブラジル大使をはじめ、中川文部科学副大臣、岡田内閣府官房審議官、鈴木浜松市長、AMD Aグループの菅波代表をパネラーに迎え、子どもたちの教育など様々な観点から外国人住民との共生の道を考え、全国へ発信してまいります。また、サンバやブラジル独特の音楽を中心とした、文化交流イベントを開催しますので、ぜひ御参加くださいますようお願いいたします。

次に3点目としまして、「市民憲章運動推進第45回全国大会」についてでございます。

平成22年9月24日から26日の3日間、「市民憲章運動推進第45回全国大会」を総社市へ招致することが決定しています。この全国大会の開催を契機とし、市民団体やNPO等の各種団体が更に連携を深め、総社市のまちづくり活動がより一層活発になることを期待しています。

引き続き、「自立する総社市」の実現を目指し、情熱をもって取り組んでまいりますので、御理解と御協力をお願い申し上げます。

さて、今議会に提案しております議案は、

平成21年度補正予算に関するもの	8件
条例の一部改正に関するもの	9件
平成22年度当初予算に関するもの	11件
その他のもの	7件

の計35件でございます。

なお、人事案件につきましては、後日上程されました際に提案理由の説明を申し上げることといたしますので、あらかじめ御了承願います。

引き続きまして、担当部長から説明を申し上げますので、いずれの議案につきましても、十分御審議をいただきまして、適切な御議決を賜りますようお願い申し上げます。提案説明とさせていただきます。